

神戸市立博物館 外部評価書(28年度)

使 命 (要 点)

- 多様な神戸文化の特徴と東西文化交流の態様を明らかにし、地域の発展に役立つ「知の拠点」となります。
- 優れた文化・芸術にふれあう機会を「提供」し、新たな調査・研究を「提案」し、その成果を「発信」する博物館となります。
- 市民・利用者が集い、神戸を愛し、誇りとする拠りどころが得られる博物館になります。
- 震災と復興のなかで得た知見を発信していきます。

活動目標

- 1 地域の歴史情報や未来の指針が得られる博物館にします
文化財を保存・継承していく博物館にします
- 2 すぐれた芸術・文化に出会える博物館にします
- 3 芸術・文化を介して、利用者が広く交流できる博物館にします
- 4 すべての人々にやさしい博物館にします

活動指針

- 市民が誇れる博物館
- すべての人々に親しまれる博物館
- 地域の文化を支える博物館
- 情報発信をする博物館

※各活動目標に対する外部評価の平均スコアは委員評価（A～D）の平均による

A: 4点、 B: 3点、 C: 2点、 D 1点で算出。

A : 3. 25点以上

B : 2. 50点以上 3. 25点未満

C : 1. 75点以上 2. 50点未満

D : 1. 75点未満

外部評価をおこなった委員（平成29年度 博物館協議会委員）

別紙の「神戸市立博物館協議会委員名簿」を参照。

<http://www.city.kobe.lg.jp/culture/culture/institution/museum/pdf/kyogikai2017.xls>

自己点検評価による総評

28年度の入館者数は、338,732人と、27年度に比べると約2万人少なかった。目標人数の約75%の達成率だったことは、展覧会の企画・運営などに関して難しさを痛感した。検証をして、今後の展覧会運営の教訓にし、魅力ある博物館を目指していきたい。ただ、30万人以上を確保できており、当館としては健闘していると考えている。

懸案であったリニューアルについては、28年度は27年度に策定したリニューアル基本計画に基づき、関係部局と協議し基本設計がまとまり、29年度の詳細実施設計のためにスムーズに準備を進めることができていると、評価できる。今後、リニューアルの工程表に則って、遅滞なく進めて、リニューアル基本計画に基づき、神戸の文化振興を担う拠点博物館を目指していきたい。

4つの活動目標のうち、28年度は、「地域の歴史情報や未来の指針が得られる博物館にします」「すぐれた芸術・文化に出会える博物館にします」の項目については、A評価からB評価とした。これは、27年度の「須磨の歴史と文化展」終了後、次の調査研究テーマ決定ができなかったこと、常設展示について、工夫ができているところとできていないところがあること、「古代ギリシャ」展が想定入場者数を下回ったことなどによる。これらの点については、今後の反省として、29年度はA評価になるようにしていきたい。

なお、残りの2つの活動目標は、27年度と同様であった。

外部評価による総評

「地域の歴史情報や未来の指針が得られる博物館にします」「すぐれた芸術・文化に出会える博物館にします」の項目が、自主評価では27年度のA評価からB評価となったが、外部評価では後者はA評価となった。

展覧会に関しては、「我が名は鶴亭」、「松方コレクション展」など、学芸員の独自の調査に基づいた展覧会とふたつの大型海外展をバランス良く開催できたが、展覧会の収支バランスの問題を重視する自主評価と、展示内容の質的評価を求める外部評価との、見解の相違によるものと思われる。

「芸術・文化を介して、利用者が広く交流できる博物館にします」の項目は、学校関係を中心とした普及事業、地域に関する調査、他機関との連携など、27年度と同様に、可能な範囲で積極的に展開されている点が評価できる。

27年度とおなじくB評価となった「すべての人々にやさしい博物館にします」については、28年度にリニューアル基本計画が策定され、29年度の詳細実施設計にむけて準備が整った点が評価できる。ネット環境が更に進んでいく中、施設などのハード面だけでなく、展示方法、展示内容、情報発信の方法なども含めて、市民に開かれた、より良い博物館になるべく一層の努力を期待している。

活動目標 1

地域の歴史情報や未来の指針が得られる博物館にします
文化財を保存・継承していく博物館にします

自己点検評価・・・B

前年度に比して評価がBにとどまったのは、「須磨展」終了後、次の調査研究テーマへの取り組みが十分に進捗していないことが要因のひとつとも考えられる。次年度に向けての方向性が定められることが望まれる。また、地域の歴史、館藏品資料の情報の発信という点では、概ね求められている役割を果たしていると考えられるが、館藏品資料・寄託資料の活用、さらにはリニューアル後の展示を視野に入れて、次年度以降の活動に傾注すべきであろう。データベースもリニューアルに向けて充実を図るべきである。

資料の保全については、日頃からのチェック体制が構築されつつあるので、継続性を持たせるとともに、環境整備を図っていくことが望まれる。

外部評価・・・B

- 11110調査研究テーマの設定についてAと評価した。
- 12100地域の歴史を調査し、その情報を発信する事業の展開の評価をAとした。
- 地元の文化財の調査やそれにもとづく展示を毎年行うのは難しいと思いますが、3年に1度とか計画的に調査をすすめ、それを継続することが大切と思います。
- 14000は博物館の基本であるので、確実にA評価となるようにして欲しい。
- 調査研究は、個人レベルだけでなく、組織として実施するような体制作りの工夫が必要。作品収集は、少ない予算の中で精一杯されているが、そもそも予算が少ないため、A評価はつけられない。
- ザヴィエルコーナーなどリニューアルで博物館の特徴を活かした展示に期待。情報開示により博物館の特徴をPRしてほしい。
- 平成27年度に展覧会を開催した特別展「須磨の歴史と文化展」に続く調査・研究テーマとして、「六甲」「長春閣」をとりあげるとは意義深いことである。神戸の歴史・文化、そして健康や娯楽など市民生活とも深いつながりのある六甲山系を研究対象とすることは、地域文化の発展に大きく寄与するものであり、当館が「知の拠点」として地域にとっての存在感を増していくことにもつながるであろう。
- 特別展「我が名は鶴亭」展における図録作成や「松方コレクション」展における作品紹介などを通じ、これらの研究成果を内外に発信できたことは大いに評価できる。「質の向上」という観点からいえば、数値目標（調査件数など）だけを重視して評価すべきではなく、日々のたゆまぬ調査研究とその蓄積を評価すべきであろう。そういった意味においては、学芸員の方々が常日頃から本来の研究・調査活動に十分に集中できる体制を、今後も確保していくことが望ましい。
- 神戸の地域史を知る貴重な手がかりとなる写真資料や古地図などについても順次データベース化が進み、画像アーカイブの一層の充実が図られることと思う。リニューアルに向けて、歴史資料や神戸の景観資料などの整理も含め、所蔵状況をデータベースに反映させ、質が高く充実した内容のデジタル・アーカイブの構築が進展することを期待したい。

活動目標 2

すぐれた芸術・文化に出会える博物館にします。

自己点検評価・・・B

常設展示については、工夫を凝らして展示を行っている空間と旧態依然の空間が混在している状況にあり、工夫が望まれるところである。リニューアルに向けて展示詳細設計の中で活かしてほしいところである。

自主企画の特別展では、黄檗僧で、画家でもあった鶴亭の画業を取り上げた「我が名は鶴亭」展は作家の掘り起こしという点で大きな成果であった。「松方コレクション展」では想定入館者数を下回ったが、元年度に開催した「神戸市制100周年記念特別展 松方コレクション展」と異なった視点で開催できたことが評価に値する。

2本の海外展「ボストン美術館所蔵 俺たちの国芳 わたしの国貞」「古代ギリシャー時空を超えた旅一」では、入館者の評価は高く、好評であったと判断できる(アンケート結果は28年度年報に掲載)。しかし、「古代ギリシャ」展では想定入館者数を大きく下回った点に、ニーズの把握や広報などの面での課題が見受けられる。今後の展覧会開催に際して、留意して努めるべきである。

外部評価・・・A

- 23100国内外の優れた資料、作品を全国巡回展で紹介についてA評価とした。
- 全体的にはバランスの取れた展示であった。鶴亭のような一般的に知られていない作家を紹介することは重要です。
- 鶴亭展の健闘は大いに評価できると思います。
- ギリシア展は予定の入場者数を大きく下回ったとのことだが、海外展のテーマ設定、あり方については、検討が必要だろう。マンネリ化しているのかもしれない。「怖い絵展」等は3時間半待ちもあるほど人気と聞きました。題名は内容が想像しやすいものや、詳しくない人でもわかり易いものにしてほしいです。それが無理ならサブタイトルで入っているといいです。行ったらどういふものが観られるのか具体的にわかる、刺激的な題名がいいです。
- SNSの広報手段はないのですか？
- リニューアルでは、たのしく学べるように、博物館の特徴を活かして欲しい。海外展はよく企画されていて、個人的に愉しみである。
- 「我が名は鶴亭」展は、若沖など江戸中期の花鳥画がブームとなっていることもあり、多数の入場者を集めた。作品のキャプション、解説の工夫などで鑑賞者の理解や関心度が大きく変わることがある。入場者の増加もさることながら、そうした工夫や努力を含めた展示内容の充実が入場者数の増加につながったと考えられる。他方、「松方コレクション」展は充実した内容であるにもかかわらず、満足度が低かったことは残念である。こうした比較的地味な企画展については、若い世代に十分に認知されているとはいえない。情報発信活動においては、展覧会の魅力を幅広い世代に伝えられるような工夫を行い、展示については、若年層にも分かるような展示を豊かな発想で展開していくことが求められよう。
- 「ボストン美術館所蔵 俺たちの国芳わたしの国貞」展については、入館者数は目標値は下回ったものの、グッズ・図録の購入率が非常に高かったことは評価できる。あ

らためて浮世絵展の関心の高まりがうかがえる。「古代ギリシャ展」については、入館者の評価が極めて高かったにもかかわらず、入館者数が目標値を下回ったことは非常に残念である。ユニークな資料や分かりやすい展示方法など、充実した展示内容は来館してみてもはじめて分かることであり、まずは足を運んでもらうための広報活動に、新しい試みや工夫が求められよう。ただ、「古代ギリシャ」展のように動員数が目標入館者数には到達しなくとも、入館者の満足度が高かった点については大いに評価すべきである。事業評価を行う場合、どうしても入館者数などのデータに頼らざるを得ないが、芸術・文化活動は本来、数値のみで測り、評価し得るものではないので、数量的なものだけではなく、「質」をどのような尺度で評価していくべきかという点についても、今後の課題として考えていく必要がある。

- 環境面での満足度が低いという点に関しては、ハード面の問題が大きい。今後、企画展・常設展ともに充実させていくためには、リニューアルによって、より魅力的な展示の実現が可能になるよう、注目していきたい。

活動目標3

芸術・文化を介して、利用者が広く交流できる博物館にします

自己点検評価・・・A

教育普及の面では従来の取り組みに加え、新たな教材や講座等を実施できたところを評価したい。

また、他の美術館・博物館との連携では「我が名は鶴亭」展で長崎歴史文化博物館と相互の所蔵資料を活用した巡回展が実施できたことや、文化庁補助事業において近隣館との連携がなされているのは望ましいことである。

なお、広報活動に関しては、館独自で行うことの限界はあるが、工夫によって補っていくことが望まれる。

外部評価・・・A

○31000はA評価が4、Bが4なのになぜA評価になるのか。個別の評価でAを増やすべきでは。

○小中学校との連携（受入数・連携数）が多いのは好ましいことであると考え。さらに進めて、学芸員の専門性をさらに発揮できる高校との連携が充実することを期待。市立高校では、地域学を行っている学校もあり、それらの研究成果を自分の進路につなげている例もある。

○外部評価：A+ 学校との連携授業や、アウトリーチ、教員研修などの取り組みが非常に充実しており教育面での貢献が高く評価出来る。

○子供が小6で、出張出前授業を3回おこなって頂きました。保護者として授業見学しましたが、生徒たちもとても楽しそうで、我が子の評判もとても良かったです。大人も楽しめる興味深い授業でした。これを良い機会に歴史や美術などに興味を持つきっかけができたと思います。これからも続けていただきたいです。

○夏休みのワークショップなどは、より多くの人が利用できるようにして欲しいです。多くの需要があり親子共々助かるものだと思います。

○学校の職員研修などで地域の歴史などを話してもらえるとうれしい。

当館は旧居留地連絡協議会のメンバーであり、旧居留地の街づくりに関する議論にも参画し、周辺商業施設とも協力関係にある。工夫次第では、今後さらに効果的な連携・交流が期待できよう。例えば大丸神戸店（大丸ミュージアム）や周辺のアートスペース（KIITO:デザイン・クリエイティブセンター神戸）などと連携し、当館を拠点に神戸発の芸術文化を発信するアート・ラリーのようなものができれば、市民の関心を集めるのではないか。一過性のアートイベントなどではなく、当館が蓄積してきた学術研究に根差した地域連携、芸術・文化交流を図り、当館の魅力を発信してほしい。

○当館は、現存する居留地時代の唯一の建造物である15番館とも近接し、旧居留地内には当時の名残を留める歴史的建造物や記念碑（東遊園地、シム記念碑など）などが多く残されている。「旧居留地内に位置する」という最大のメリットを活かし、「知の拠点」としての存在価値を高めていくことが望ましい。

勤労市民センターとの連携事業は、当館の所蔵資料・作品を知ってもらい、神戸の歴史、芸術・文化の理解を深めてもらえる有意義な取り組みである。学芸員の専門性を

活かし、学芸員の方々がその知見を十分に発信できるよう、今後も期待したい。

- また、交流という観点では、博物館学習支援交流員の活動が評価できるし、旧居留地内を案内しているボランティアガイドの方々との連携・協力事業なども考えられる。年齢構成でいえば60歳代～70歳代の方々が多く、神戸の歴史についてもある程度熟知し、また関心も深い世代ではないか。「タウンガイドKOBE24」（市役所に拠点）等、館外のボランティア団体とも連携し、より広く当館の魅力を知ってもらうことも必要である。
- 蘇州美術館への貸出しを通じて館蔵資料の魅力を国際的に発信できた点は大いに評価できる。また、東京・板橋区立美術館への長崎版画の貸出しも行い、当館の所蔵作品を内外に広く紹介できたことは高く評価できる。神戸市文書館、小磯記念美術館、神戸ゆかりの美術館など市内には、豊富なコレクションと研究蓄積をベースに、それぞれの特徴を生かした文化施設が点在している。こうした市内の施設はもちろんのこと、芦屋市立美術博物館、西宮市立郷土資料館、西宮大谷記念美術館など、近隣の市とも有機的連携を深め、共通テーマのもと、魅力ある企画展の開催をめざすなど、より良い協力体制を整備・維持していくことが望まれる（「続・阪神間モダニズム展」の開催など）。

活動目標 4

すべての人々にやさしい博物館にします

自己点検評価・・・B

施設・設備については、予算の制約のため、優先順位をつけて緊急性の高いものから実施しており、28年度は消防設備改修や中央監視システムの更新工事を実施した。非常用電源設備更新やトイレの改修など、対応すべき点もまだ残っているが、今後リニューアルを実施していく中で、より一層、ユニバーサルデザインの観点から必要な施設、設備の改修を進めていく。

外部評価・・・B

- 41100施設の計画的な補修、改修についてA評価とした。
- 41300ユニバーサルデザインへの対応についてをA評価とした。
- リニューアルに期待します。
- 予算はなかなか厳しいと思いますが、知恵を絞って頑張ってください。
- 地域の文化財の活用が求められており、予算ならびに学芸員のさらなる充実が期待される。
- 施設・設備面での充実は改修後に期待したい。
- 1階は誰にでも気軽に利用できるカフェができるのは良いと思った。
- リニューアル後に期待を込めて、A評価とした。
- 荷物を持っていたときに係の人がスマートにクロークを案内してくれた。サービスも素敵です。
- 27年度に策定された博物館リニューアル基本計画には、ユニバーサルデザインの対応が組み込まれており、より機能的でやさしい環境整備が求められている。伝統ある当館の歴史的・文化的価値を保存しつつ、採光の工夫や木々の緑に心安らぐような空間づくりの工夫を重ね、人に優しく機能的な「知の空間」を創ることが求められよう。また近年では、展示スペースのみならず、ミュージアム・カフェ、ミュージアム・ショップなどの施設が果たす役割も大きく、注目されている。来館者が博物館を身近に感じ、愉しみ、くつろげるよう、これらの施設やグッズ開発についても、より魅力的なものに近づけていけるよう検討する必要があるだろう。